

## 「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学農学部地域環境工学科二年 巽鮎子

- ① 今回、浙江大学のスプリングスクールに参加して、語学を学習していく姿勢が変わった。今までは、テストに向けて勉強してしまっていたところがあり、英語や中国語を学ぶのが嫌になることがあった。しかし、浙江大学で過ごした二週間でもっと勉強して使えるようになりたいと強く思うようになった。その理由としては、同じクラスで授業を受けた様々な国から留学している人との交流の中で自分の言いたいことを思うように伝えられない時があったからだ。私のクラスはとても良い雰囲気で仲が良く、皆でお昼を一緒に食べることもあり、とても楽しかった。しかし、私は中国語だけでなく英語も苦手で、たくさん話がしたいと思う一方で話しかけられても上手く返せないことが不安で、積極的に話をするのができなかった。日本語であればもっとたくさんのことを伝えられ仲良くなれるのではないかと思うたびに、英語をうまく使えないことがとても悔しかった。もちろん中国語も授業を受けてとても勉強になったが、それと同時に英語での授業や友達との会話によって英語も学ぶことができ、とても充実していた。中国人や、他国の友達ができ、日本に帰ってきてからも連絡をとった人や、今度日本に留学してくる人もいるので、その人たちともっと仲良くなりたい、自分の言いたいことをきちんと伝えたいという強い気持ちで中国語、英語をしっかりと学んでいきたい。
- ② 中国では親切なおじさんとの出会いもあった。私は、京大から一緒に行ったみんなで乗っていた大型のタクシーの中に携帯電話を忘れてしまい、迷惑をかけてしまった。携帯がないことに気がつき道端で靴の中を一生懸命探していると、あるタクシー運転手のおじさんがどうしたのかと話しかけてきた。さっきのタクシーに携帯を忘れてしまったかもしれないと話すると、タクシードライバー同士のつながりで色々なところへ電話をかけてくれ、最終的にどのタクシーかを突き止めてくれ、そのタクシーは携帯を返しに私たちのところへ戻ってきてくれた。わざわざ引き返してくれたのに、お代はいらないと言った。ここまで尽くしてくれた本当に親切な中国人のおじさんに私たちは皆、感動した。私の不注意で皆に迷惑をかけてしまったが、おじさんは日中友好と言っていて、私が中国へ行く前から期待していた、国同士の問題を超えた、人と人の素敵な出会いすることができた。
- ③ 今回のプログラムでは午前中は中国語の授業を受け、午後は有名な観光地に行ったり、中国の学生とプレゼン発表をして交流したり、予定が詰まっていた忙しかったが、とても充実していて、二週間という短い期間の中で、たくさんのことを学べ、中国の良さを感じることができた。中国語の授業は、事前の口答試験でクラス分けされ、私は自分に合った授業を受けることができたと思う。英語での授業なので、英語と中国語を同時に勉強できて良かった。プレゼン発表をして、浙江大学農学部の学生と食の安全、農薬問題などについて意見交換ができ、貴重な経験となった。農学部の同じ分野の学生とは特に話が合った。また、有名なところ、行きたかったところに観光することができたことも良い思い出となった。泊まっていた留学生寮から教室までは5~10分で行くことができたので、8時開始と少し早い時間でも余裕をもって席に座ることができた。留学生寮の一人部屋はきれいで、掃除してもらえて、とても快適だった。また、学校の売店も留学生寮を出てすぐのところにあり日用品も手に入ったので便利だった。
- ④ 進路については、三回生になるので決めなければならない時期であるが、あまり決まっておらず、今回このプログラムに参加した理由の一つに、何か将来やりたいことを探すきっかけとなればという思いがあった。実際行って見て、職業をはっきりと決められたわけではないが、今まで勉強することや使うことから逃げていた英語を将来使って他国の人々と関わりをもつような仕事がしたいと思った。また、中国語もこれからしっかりと勉強しなおして、中国の人々ともよき仕事のパートナーとなって協力し合いたいという気持ちになった。